Semicon India 2025 出張報告

セミコンショー会期：2025年9月2～4日
出張先 ：インド・ニューデリー（インド国際会議博覧センター、ヤショブーミ）
出席　：Nagase India Semiconductor Seminar 2025 (9/1)
JCCII 第7回半導体部会 (9/2)
Semicon India 2025 (9/2～4)
気候　：滞在期間の日中の最高 / 最低気温は35℃ /27℃で毎日1～2回スコールがあった。（モンスーン期だとしても今年は例年よりも雨が多いらしい。道路のあちこちが冠水していた。）

8月31日、SEAJ 職員の私は羽田発シンガポール経由で15時間の移動を経て初めてのインドに到着した。今回の出張は主要3イベントに出席・視察することが主な目的である。

セミコン看板とモディ首相

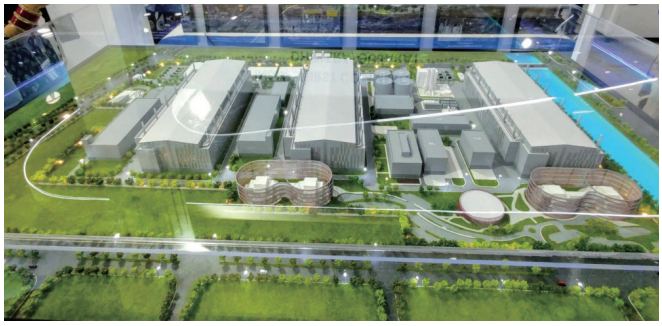
概要：

― Nagase India Semiconductor Seminar 2025（9/1）
― JCCII（インド日本商工会）第7回半導体委員会（9/2）

両会議と、ネットワーキングセッションで TATA エレクトロニクスが半導体工場建設を進めるグジャラート州ドレラのインフラ整備進捗などについて現地のリアルな状況を聞くことができた。

TATA エレクトロニクス建設進捗

TATA エレクトロニクスはドレラ特別投資地区（Dholera SIR）で5万枚 / 月規模の第1ファブを建設中。（参加者との情報交換から計画は約1年遅れており、現在2027年末～2028年初頭竣工見込み。）



TATAエレクトロニクス・ドレラの完成予想模型
上段：2025年3月時点での模型。
下段：2025年9月 Semicon Indiaでの模型。半年間で大きく外観や建屋配置が変わっている。

ドレラ周辺インフラ整備状況

ドレラ地区はインド政府の「自立したインド（Resilient India）政策」の象徴的プロジェクトとして位置づけられている。

交通インフラ

・州都アーメダバード～ドレラ間の高速道路整備が進行中で、2025年度第2四半期に開通予定（まだ工事継続中で開通時期は不透明）。
・国際空港も建設中で、2025年度中に貨物業務開始、2026年に旅客サービス開始予定。

生活インフラ

日本人向けホテル・レストラン（AJU グループ）が進出予定。日本食提供可能な施設も整備中。

電力・水インフラ

・電力供給は量的には十分だが、停電頻度が高く、安定

性に課題あり。実際私が首都ニューデリーのホテルに滞在中も瞬停が数回発生した。

・水の供給は量的には問題ないが、水ストレス指数が高く地域差がある。

物流インフラ

NX（日通）が現地の道路状況を調査中。幹線道路は良好な状態だが、支線部分は改善が必要。輸送品質の確保が重要。

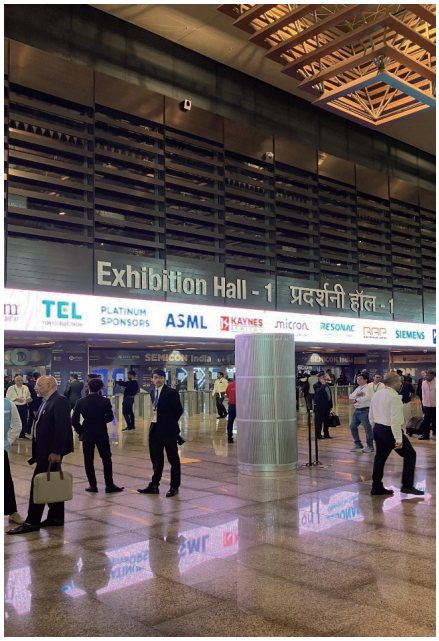
—Semicon India（9/2〜4）

Semicon India は今年で2回目。テーマは「Building the Next Semiconductor Powerhouse（次世代の半導体大国を築く）」である。

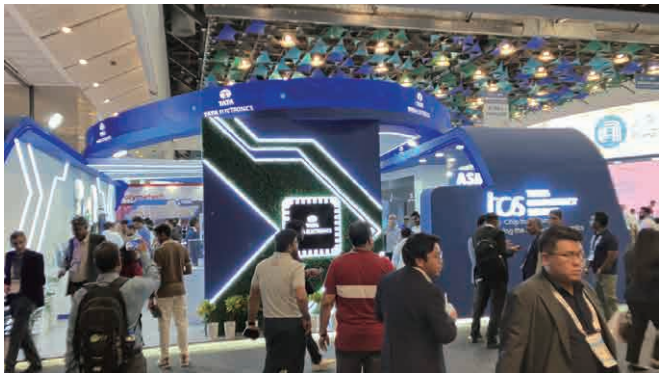
ショーの運営に関して事前のオフィシャル情報では3日間とも開場は10時とあったが、1日目の午前は一般ビジターは入場できず、2日目も急遽午後からの入場となり会場周辺の道路は大渋滞となった。初日のバッジ交換に2時間かかるなど、運営体制は今後改善していくものと思われる。

このような混乱もありながら、出展社は約350社、1,275ブース（2024年第1回の2倍）、入場者は3万人以上で、ブース展示も TATA エレクトロニクス、CG-Semi、Micron などインドで生産している半導体企業のほか Global 10の半導体製造装置企業をはじめとして主要企業がかなり大きくブースを構えており、インドビジネスへの期待の高さを伺わせるものであった。来年もさらに規模が拡大されるものと思われる。

セミコン入場バッジ交換所



セミコン会場のメインエントランス



TATAエレクトロニクスブース

会場内はそれほど混雑していない

（SEAJ 事務局　太田（おおた）　恒和（つねかず））